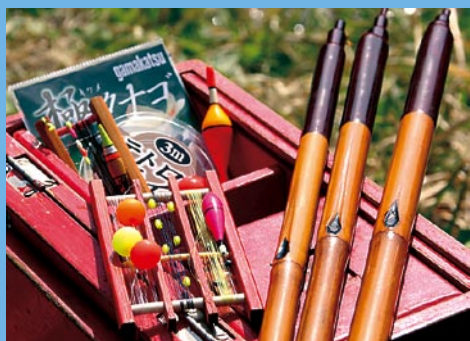


川釣り仕掛け 大全

淡水で釣れる、あらゆるターゲットの仕掛けを完全網羅！



川釣り仕掛け大全

CONTENTS

川釣りの基本仕掛け・5パターン 4

PART1 仕掛けのパーツ作りを楽しもう！ 14

発泡ウキ	川釣り全般に使える高感度ウキを作ろう！..... 15
アタリウキ	水中のラインのわずかな動きをこれでキャッチ..... 16
十字テンビン	根掛かりの多いポイントでテナガエビを釣ろう！..... 17
スイミングフック	ルアーのフックを工夫してバラシも激減なのだ..... 18
スプーン	世界にひとつだけのオリジナルルアーを作る..... 19
編み付け器	編み付け作業の必需品を格安で作ってみよう..... 20

PART2 マスターしたい最強結び 13 選 21

接続具とラインの結び	8の字結び クリンチノット ユニノット 簡単結び 22
ハリとラインの結び	内掛け結び 最速結び 26
ラインとラインの結び	エイトノット サージャンノット 電車結び ネイルノット 28
その他の結び	チチワ結び 編み付け結び フリーノット 32

PART3 仕掛けのパーツを知る 35

ライン	適材適所のライン素材の選択と、細イトの使いこなし方をマスターしよう 36
ハリ	ハリの形状やハリ先の長さなどで、適合したターゲットが変わってくる 38
ウキ	種類はいっぱいあるが、まずは自分が使いやすいウキを選ぶことが大切だ 40
小物類	仕掛けの操作性は、オモリで決まる。その他の小物選びも吟味したい 42
ルアー	無数にあるバリエーションのなかから、ヒットルアーを見つけるのが楽しいのだ 44
フライ	ターゲットや狙いのレンジによって、ラインやフライの種類を使い分けよう！ 46
ツール	楽しく仕掛けを作るために、快適に使えるツールもそろえておきたい 48

PART4 川釣りの仕掛け 106 選 49

アオウオ ◆ 投げ釣り	 50
アカメ ◆ ルアー	 52
アブラハヤ ◆ ウキ釣り	 54
アメマス ◆ ミャク釣り フライ ルアー	 55
アメリカナマズ ◆ ルアー 投げ釣り	 58
アユ ◆ エサ釣り 友釣り ドブ釣り コロガシ	 60
イトウ ◆ ルアー フライ	 70
イワナ ◆ ミャク釣り フライ テンカラ ルアー トローリング	 72
ウグイ ◆ ミャク釣り ウキ釣り ルアー フライ	 78
ウナギ ◆ 投げ釣り はえ縄	 82
オイカワ・ハエ ◆ ウキ釣り スピード 蚊バリ オランダ	 84



オショロコマ ◆ ミャク釣り フライ	 92
カジカ ◆ 穴釣り	 94
カマツカ ◆ ミャク釣り	 96
カワムツ ◆ フライ	 97
カラフトマス ◆ ルアー フライ	 98
コイ ◆ ウキ釣り 投げ釣り フライ	 100
サケ ◆ ルアー エサ釣り	 106
スズキ ◆ ルアー	 108
ソウギョ ◆ 草バリ	 111
タナゴ ◆ ウキ釣り トンボ	 112
チチブ・ヌマチチブ ◆ 穴釣り	 117
テナガエビ ◆ ウキ釣り テンビン	 118
テラピア ◆ ルアー	 121
ナマズ ◆ 投げ釣り ルアー	 122
ニゴイ ◆ ミャク釣り フライ ルアー	 124
ニジマス ◆ ウキ釣り ミャク釣り ルアー（管理釣り場） ルアー（湖） フライ（管理釣り場） フライ（湖） トローリング	 126
ハス ◆ ウキ釣り フライ	 134
ヒガイ ◆ ウキ釣り 投げ釣り	 136
ヒメマス ◆ サビキ ヒメトロ	 138
ブラックバス ◆ ルアー フライ ウキ釣り	 140
ブルーギル ◆ ウキ釣り フライ	 146
ブルックトラウト ◆ ルアー フライ	 148
ヘラブナ ◆ ウキ釣り 底釣り ドボン	 150
マブナ ◆ シモリウキ 小ブナ ズキ釣り 並べ釣り	 158
モツゴ・モロコ ◆ ウキ釣り トンボ	 164
ヤマメ・アマゴ ◆ ミャク釣り ゼロ仕掛け 本流釣り ウキ釣り フライ ルアー テンカラ	 166
ライギョ ◆ ルアー	 174
レンギョ ◆ 遊動ウキ	 176
ワカサギ ◆ ミャク釣り 穴釣り 岸釣り	 178
ワタカ ◆ ウキ釣り フライ	 182



仕掛け作りの用語集	 184
知っておきたい仕掛け作りの単位換算表	 188
“釣育” のススメ あとがきにかえて	 189

COLUMN	知ってお得なミニ Q&A ①	 81
	知ってお得なミニ Q&A ②	 105
	知ってお得なミニ Q&A ③	 145
	知ってお得なミニ Q&A ④	 173



川釣りが一番ポピュラーな仕掛け。バリエーションも豊富なのだ

ウキ釣り仕掛け

川釣りでもっとも基本となるのが、このウキ釣り仕掛けだ。里川でのマブナ釣りに始まり、清流のオイカワやアユ釣り、山上湖でのヘラブナ釣り、コイやレンギョといった大物狙いまで、そのバリエーションはじつにさまざま。川釣りをオールラウンドに楽しむなら、やっぱりこの仕掛けは絶対に欠かせないのだ。水面に浮かぶウキに魚信が現れた瞬間、大人も子供もハラハラ、ドキドキの興奮を体験できるだろう。

主な対象魚

マブナ
タナゴ
ヘラブナ
オイカワ
アユ
カワムツ
ウグイ
コイ
レンギョ
ニジマス
ヤマメ
ブラックバス
ブルーギル
テナガエビ

FLOAT-RIG SYSTEM

【ミチイト】
川釣りでは1号以下のナイロンの細イトを使うことが多い。竿先にはチチワ結び(32ページ)で結節する

【ウキ】
ウキ釣り仕掛けの主要パーツ。状況に応じて、玉ウキや発泡ウキ、トウガラシウキ、シモリウキなどを使い分ける

【ウキゴム】
固定式ウキ仕掛けの場合は、ウキの脚をゴム管で固定する。ウキ下を変えるときは、ここをつまんでミチイトを上下させればOKだ

【サルカン】
ミチイトとハリスを接続するためのパーツで、仕掛けのヨレを解消する役割も果たす。自動ハリス止めを使えば、ハリスの交換もスピーディだ

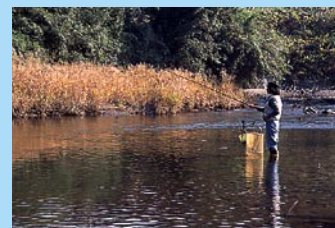
【オモリ】
ウキの浮力を調整する必須パーツ。この仕掛けの完成度は、オモリの使い方次第といっても過言じゃない。板オモリやガン玉などの種類がある

【ハリ&ハリス】
小物釣りでは、細軸でアワセの利きやすい袖バリを使うことが多い。最初は、市販のハリス付きを使えば手間いらずだ

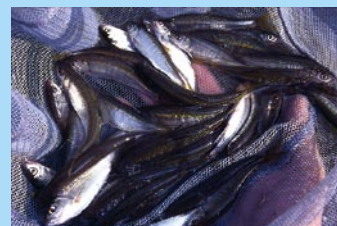


都市近郊を流れる“里川”で楽しむ小ブナ釣り。ひとつのウキを親子で見つめ、スローな釣りを満喫する……

ホソの小ブナ釣りから
清流でのアユ・オイカワ釣り
山上湖のヘラブナ釣りまで、
エサ釣りのバラエティは無限だ



爽やかな清流でオイカワを狙う。スピード仕掛けを使えば、驚異的な釣果も期待できる



人里離れた湖でヘラブナの強烈な引きを楽しむ……。この静のなかに隠されたダイナミズムこそが、ウキ釣りの魅力なのだ

一本のラインだけで渓流魚たちと渡り合う。“シンプル＝強さ”なのだ

ミャク釣り仕掛け

竿先からハリまで一本のラインが通り、そこに目印とオモリをセットするだけのシンプルさ。ミャク釣り仕掛けの真骨頂は、じつはそこにある。どんなベテランが作った仕掛けでも、ラインの結び目だけはどうしても強度が落ちてしまう。ならば、その結び目を極力少なくしてしまおうというのが、このミャク釣り仕掛けなのだ。現場で簡単に作れて、トラブルも少ない。渓流の宝石たちと出逢うための、過不足のないパーフェクトな仕掛けなのである。

主な対象魚

イwana
ヤマメ
ニジマス
アメマス
ニゴイ
ウグイ
アユ
タナゴ
モツゴ
カジカ
カマツカ

DRIFT-RIG SYSTEM

【ミチイト】

通常は0.3～0.6号程度のナイロンラインを使用する。しかし、現在では0.1号を基準とするゼロ釣法、太イトを使った本流の大物狙いも人気急上昇中だ

【目印】

仕掛けの動きを、目で追うための必須パーツ。この目印の変化によって、仕掛けの状態や魚の当たりがわかるわけだ。ヤマブキやセルロイド製の目印もあるが、現在の主流は軽量で水切れのいいポリエステル製

【オモリ】

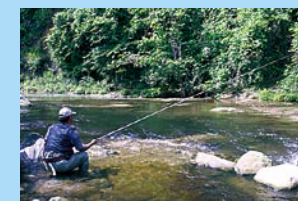
仕掛けを底流へ送り込むためのサポート的な役割を果たす。使用するガン玉は、細かくサイズ分けされており、流速や水深、ラインの太さなどによって適宜使い分ける

【ハリ】

川虫やイクラなどの繊細なエサを刺し通しやすい細軸のヤマメバリを使うことが多い。大物狙いでは、ハリのチモトを2本ヨリにするなどの補強を施す



初夏、渓流は圧倒的な生命感で釣り人を迎えてくれる。清冽な流れと川面を行く涼風に、至福の瞬間を感じる……



圧倒的な自然の前では、小難しい仕掛けは一切無用。一本のイト、一本のハリで渓流たちと対峙する……



渓流の宝石・ヤマメ。その姿は、いつ見ても感動的だ。この出逢いのために、釣り人はシーズンの到来を待ち焦がれる

広範囲のポイントを自在に直撃するための必須システム

投げ釣り仕掛け

大規模河川や湖沼などで、水底に潜むターゲットを狙うときに多用するのが、この投げ釣り仕掛けだ。なかでも、トップクラスの人気を誇るコイ釣りでは、多くのファンたちの熱意と知恵によって、さまざまな仕掛けのバリエーションが考案されている。また、手軽なところではウナギやナマズ、ヒガイ、ニゴイ、ウグイなども投げ釣りで楽しめる好ターゲットだ。この、何が釣れるかわからないワクワク感も、投げ釣り仕掛けの楽しみといえるだろう。

主な対象魚

コイ
ニゴイ
ヒガイ
ナマズ
ウナギ
アオウオ
アメリカナマズ
ウグイ
ワカサギ

CASTING-RIG SYSTEM

【ミチイト】

タックルバランスを考慮した強度選びが重要。その選択肢は、1号の細イトから10号以上の太イトまで幅広いのだ

【オモリイト】

オモリを遊動式にする場合、ミチイトの先端に別イトを結節してオモリをセットする。これによって、ラインの消耗や遊動距離の調整などに対応できるわけだ

【オモリ】

これも、タックルバランスに適合した重さのものを使用する。根掛かりの多いポイントでは、クリップやダブルスナップなどを利用して、捨てオモリ仕様にする 것도多い

【ハリ&ハリス】

ハリのサイズや形状は、ターゲットに合わせて使い分ける。1本バリ仕様だとトラブルも少なく理想だが、大物狙いでは2本バリもポピュラー。2本目のハリが口まわりに掛かることで、力が分散する仕組みだ

【ゴム管】

オモリのショックを吸収するパーツ。ヨウジなどで固定すれば、遊動範囲を調整することが可能だ

【スナップサルカン】仕掛けのヨレ軽減のほか、ハリスの交換を容易にしてくれるパーツ

淡水魚の王者であるコイは、投げ釣りでもっとも人気のあるターゲット。80 cm超の巨ゴイは、海のイシダイ釣りにも匹敵する頑強仕掛けで挑むのだ!



巨ゴイから、ウナギ、ナマズ、ワカサギまで。狙ったポイントをフルキャストで直撃!

川釣りの基本仕掛け・5パターン

遠方のポイントを狙える投げ釣り仕掛けなら、湖を群れで回遊するワカサギを爆釣することだってできるのだ



ウナギは釣ってうれしい淡水魚の筆頭だろう。夕まづめ、ゆったりとした流れで投げ釣りを楽しむ……

淡水でのターゲットは意外と豊富。釣りの入門にもピッタリなのだ！

ルアー仕掛け

釣りの基本はエサを使った釣りだが、現在ではいきなりルアーフィッシングから入門するビギナーも増えている。ラインにルアーを結ぶだけという仕掛けのシンプルさだけでなく、“自分でルアーを操作する”というゲーム性、さらには、各種のトラウトやブラックバスを始めとしたバラエティーに富んだターゲットと遊べることも、その人気の理由といえるだろう。

主な対象魚

イwana
ヤマメ
ニジマス
ブラックバス
イトウ
カラフトマス
サケ
ブルックトラウト
ライギョ
スズキ
テラピア
ナマズ
ニゴイ
アカメ

LURE-FISHING SYSTEM

【メインライン】

軽量のルアーを遠投したり、操作性を向上させるため、メインラインはできる範囲で細くするのが理想だ。基本はナイロンラインだが、細くても強度に優れる PE ラインを使うこともある

【ルアー】

ルアーは小魚や昆虫などを模したもので、プラグやスプーンなど無数の種類がある。ラインとの結節は、通常、フリーノットやクリンチノットなどで行う

【フック】

通常、ルアーには「トレブルフック」と呼ばれる3本イカリのハリがセットされている。ただし、渓流や管理釣り場でのトラウトゲームでは、魚へのダメージ軽減とフッキングをよくするために、シングルフックも多用される

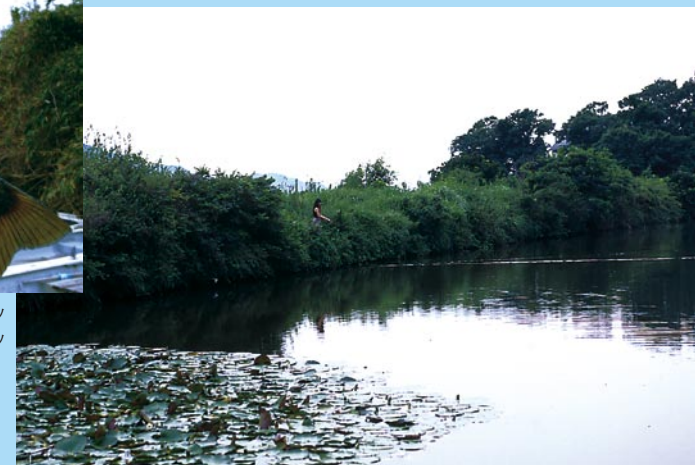
現在では、管理釣り場でのルアーフィッシングも人気を集めている。カップルやファミリーフィッシングにも最高！



深山幽谷の源流帯から、
山上湖、ダム湖、本流、野池、
そして、人気の管理釣り場まで、
ルアーのフィールドは幅広いぞ！



湖や野池などに棲息するブラックバスも、ルアーの人気ターゲット。使うルアーの種類も無数だ



軽量のフライを狙ったスポットへキャストするための、合理的なラインシステム

フライ仕掛け

淡水の釣りにおいて、確固たる人気ジャンルとなっているのがフライフィッシングだ。使用するタックルやラインは、軽量のフライを狙ったスポットへ正確にキャストするために、完全にシステム化されているのが特徴。フライにも無数のパターンがあり、これらをターゲットやフィールド、釣り方などによって使い分けていく。このシステムチックなゲーム性こそが、フライフィッシングの大きな魅力といえるだろう。

主な対象魚

ヤマメ
イwana
ニジマス
アメマス
ブルックトラウト
ブラウントラウト
イトウ
オシロコマ
カラフトマス
サケ
ブラックバス
ブルーギル
ハス
コイ

FLY-FISHING SYSTEM

【フライライン】

ダクロンの編みイトに特殊ビニールをコーティングしたラインで、先端がテーパー状に細くなっている。水に浮くタイプと沈むタイプに大別され、さらに番手によって重量分けされており、選択時の大きな目安になっている

【リーダー】

元から先端にかけて細くなるテーパー状のラインで、フライラインから伝わってきたパワーをフライに届ける役割を果たす。長さは7～12フィートが標準だ。フライラインとの結節方法は、31ページを参考に

【フライ】

カゲロウや小魚、昆虫などを模した毛バリ。その種類は、ドライ、ニンフ、ウエット、ストリーマーなどに大別される。市販品もあるが、自分で巻いたオリジナルで釣ることも、大きな楽しみだ

【ティベット】

エサ釣りでの“ハリス”に相当するライン。フライのサイズに適合した太さのものを使用する（47ページ参照）。長さは3フィート程度が扱いやすいが、現在ではロングティベットも人気だ。ここに、マーカ―やシンカーを付ける釣り方もある

【バックギンライン】

フライラインは直接リールに巻くのではなく、あらかじめバックギンラインを下巻きしておくのが普通だ。大物狙いでフライラインがすべて引き出されても、バックギンでやりとりすることが可能だ



滔々と流れるチョークストリーム、雄大な風景を背にした山上湖。
自然との対話のなかで
新たなフライのアイディアが閃く



滔々と流れるチョークストリームで、自分が巻いたフライをそっとプレゼンテーションする。瞬間、バイカモの陰からブルックが飛び出してきた

憧れのネイティブトラウトを求めて、山上湖へのアプローチ。雄大な自然に抱かれながら、釣り人は歓喜のときを待ち続ける……



PART1 仕掛けのパーツ 作りを楽しもう!

自分だけのオリジナルパーツで釣果もアップ!



発泡ウキ

川釣り全般に使える
高感度ウキを作ろう!

川釣りではウキを使った仕掛けがポピュラーだ。ウキの種類はいろいろあるが、浮力の高い発泡材で作られたウキは、ボディを小さくできるために感度に優れているのがメリット。材料は釣具店で購入できるので、ぜひオリジナルウキを作ってみよう!



1 材料は、硬質発泡材 10 mm 径、グラスソリッド 1 mm 径、発泡材用の蛍光塗料と接着剤などだ



2 発泡材を長さ 3 cm ほどにカットし、中心の穴に長さ 8 ~ 9 cm に切ったソリッドを差し込んで接着する



3 接着剤が固着したら、カッターで発泡材を粗削りする。器用な人なら最後まで仕上げることも可能



4 ドリルを持っていたら、適当な台に固定すると簡易旋盤として使える。これなら作業も楽勝だ



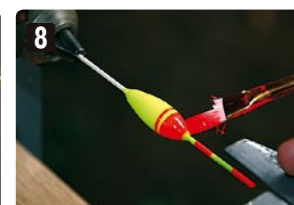
5 ソリッド部をドリルチャックに挟み、中速で回転させながらカッターの刃を当てて好みの形に削っていく



6 あらかた削り終わったら、耐水ペーパーの 200 ~ 800 番を当てて表面を仕上げていく



7 色塗りも旋盤があると便利。重ね塗りする場合は、イエローなどの淡い色から塗るのが原則



8 一日乾燥させてから、好みの配色で重ね塗りする。最後にクリア塗料で仕上げれば完成だ

◆作り方のコツ◆

このウキ作りのポイントは、やはり削りの工程。速度調整のできる電気ドリルは、ぜひとも欲しいツールだ。削るときは、カッターの刃を当てる角度によって効率が変わるので、適宜調整してみたい。安全対策も忘れずに!

仕掛けのパーツ作りを楽しもう!

アタリウキ



水中のラインのわずかな動きをこれでキャッチ

川釣りでは根強い人気のあるのが、小川や用水路での小ブナやタナゴ釣り。使用する仕掛けは繊細で、水中の微妙なラインの動きを読むためにアタリウキを使うことも多い。作り方はいろいろあるが、ここではお湯で軟らかくなる特殊樹脂を使ってみよう。



1 材料は、特殊樹脂（商品名は「自由樹脂」）と蛍光塗料だけ。ミチイトとヨウジも用意しておこう



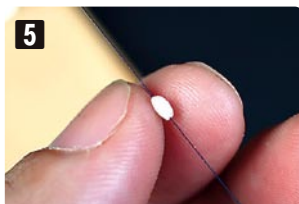
2 ミチイトを編み付け器（20ページ参照）で、ピンと張っておくと作業がやりやすくなる



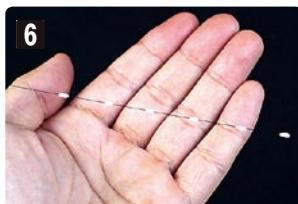
3 特殊樹脂は顆粒状で、60度以上のお湯に入れると数秒で軟らかくなって自由に形を変えられる



4 樹脂一粒を目印一個分にしたいが、さらにカットしてもOK。これをお湯に入れて軟らかくする



5 樹脂をミチイトに5〜7個ほど付けていく。ミチイトとよくなじむように指で圧着するのが最大のキモ



6 樹脂が冷めると固くなるので、指で動かしてミチイトとの適度な抵抗感があるかを再チェックする



7 ヨウジの先端に少量の塗料を取り、目印に塗装していく。重ね塗りの回数で大きさの調整ができる



8 塗料が片側に偏らないように、仕掛けの上下を変えながら乾燥させれば完成だ

◆作り方のコツ◆

ここで使った特殊樹脂は、東急ハンズや一部のホームセンターなどで購入可能。ゆっくり水に沈んでいく絶妙な比重なので、アタリウキとしてはバッチリの素材だ。圧着が弱いと、アタリウキがミチイトを滑ってしまうので注意

十字テンビン



根掛かりの多いポイントでテナガエビを釣ろう!

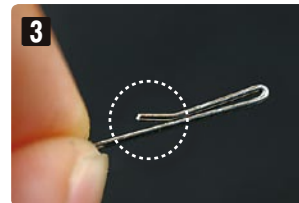
テナガエビは障害物の多いポイントほどよく釣れるが、根掛かりで仕掛けをロストしやすいのが悩みの種。そこで考案されたのが、このテンビン。横に出ているアームがバリケードになって、テナガエビがエサを巣穴に持ち込めない仕組みになっているのだ。



1 直径3mmの硬質パイプを6cmの長さにカットし、上から2cmの位置に熱したハリで穴を開ける



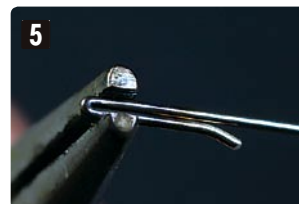
2 0.6mm径のステン線15cmをパイプの穴に通し、ステン線の両端1cmをプライヤーで折り曲げる



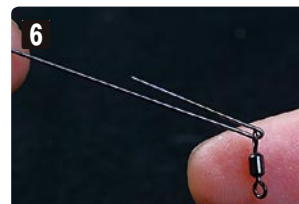
3 完全に折り曲げてハリス止めを作る。○部を少し開けて、ハリスを入れやすくするのがキモ



4 そしてさらなるキモは、ハリスを止める末端部分をライターで2秒ほど熱して焼きを入れることだ



5 すぐにプライヤーでプレスしてやる。これで0.3号以下の細ハリスでもスッポ抜けなくなるのだ



6 もう一本、長さ10cmのステン線を用意。片側2cmを折り曲げて、そこに小型サルカンを通しておく



7 サルカンを通したステン線をパイプの上から差し込み、1で開けた穴に瞬間接着剤を入れて固定



8 パイプ下側から飛び出しているステン線に中通しオモリ0.5号を通して、ステン線をねじり留めて完成

◆作り方のコツ◆

この仕掛けでは、テンビンのオモリが川底に着いてヤジロベイのように立つのが基本。したがって、パイプやアームの長さは、ハリスをセットした状態でエサが川底に着くように調整することが大切だ。オモリはガン玉を使ってもOK

仕掛けのパーツ作りを楽しもう!

スイミングフック



ルアーのフックを工夫して
バラシも激減なのだ

溪流や山上湖でのルアーフィッシングでは、リリース前提に楽しむ場合、ルアーのフックをシングル仕様にしておくことが多い。ここでは、スプーン用のフックを作ってみた。魚が暴れたときでも、フックの軸がネジれることでバラシを軽減する優れモノだ。



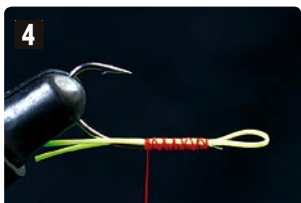
使用するフックは、大型トラウト狙いなら丸セイゴ、管理釣り場用ならマスバリなどがオススメだ



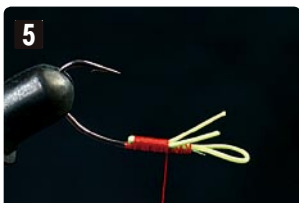
フックをバイスに固定し、ミシン糸 # 50 を下巻きする。アイ用のラインはダクロンやPEの 20 磅だ



アイ用のラインを 10 cm にカットし、二つ折りにしてからフックに添えてミシン糸で仮止めする



フックの軸の半分程度を利用してミシン糸を巻いていけば、アイがスッポ抜ける心配はない



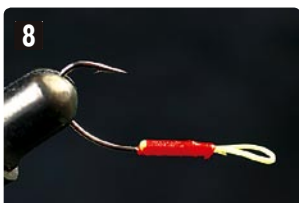
アイ用のラインを折り返し、今度はミシン糸を密に巻いていく。段差ができないように仕上げたい



軸の端まで巻き上げたら、ラインの余分をカット。最後にミシン糸で絡め結びを 2 回して固定する



ミシン糸をカットしてから、瞬間接着剤を薄く塗って固める。このとき、アイまで塗らないように注意



これで完成。アイの長さは、フックの軸の 1/3 ~ 1/2 程度にするのが目安だ

◆作り方のコツ◆

スイミングフックは、ルアー本体とのバランスも重要だ。フック全体の長さは、スプーンの全長の 2/3 程度がベスト。フックの幅（フトコロ）は、スプーンの幅と同等が目安なので、フックサイズもそれを考慮して選べば OK だ

スプーン

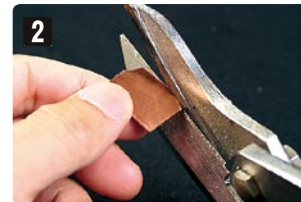


世界にひとつだけの
オリジナルルアーを作る

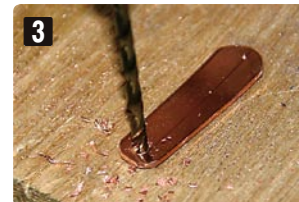
現在、ブレイク中なのが管理釣り場でのルアーフィッシング。使用ルアーは、1 ~ 3 g 程度のマイクロスプーンがメインだが、これを手作りしてみると、釣ったときの快感は倍増する。魚にもっともアピールするとされる、シルバー色のスプーンを作ってみよう！



材料は 1 mm 厚の銅版とスプリットリング、フック。今回は東急ハンズで買える銀メッキ液も使用した



銅版を金サミでカットしてスプーンのボディを作る。目安としては 3 x 1 cm のサイズで約 3 g になる



銅版の上下にリングを入れる穴を 2.5 mm 径のドリルで開け、全体のバリなどをヤスリで整形していく



段ボールなどの厚紙に銅版をはさみ、プライヤーでしっかり握って適当な角度に曲げてやる



これでスプーンの原形が完成。今回はさらに銅版をピカピカに磨き、銀メッキを施してみる



市販の銅版は表面が粗いので、極細のコンパウンドで磨く。これだけでも十分に魚にアピールする



メッキ液を塗ると一瞬で化学反応を起こすので、ウエスで拭き取る。これを 3 ~ 4 回繰り返す



上が銀メッキしたもの。セーム革で磨くとピカピカになる。スプリットリングとフックを装着して完成

◆作り方のコツ◆

このような小型のスプーンは、わずかな形状の違いや曲がり具合でアクションが全然違ってくる。無難な形状は 5 の左の 2 つのタイプ。右のタイプは縦方向の曲げが必要なので、手作業で作るのはちょっと難しいかも

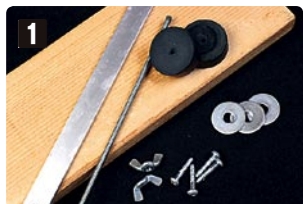
仕掛けのパーツ作りを楽しもう！

編み付け器



編み付け作業の必需品を
格安で作ってみよう

細ラインを使うときに多用するのが編み付け結び。これを行うためには、メインライン側をピンと張るための専用編み付け器があると便利だ。市販品は1万円ほどするが、自分で作れば材料費だけ。作製時間も30分ほどなので、チャレンジしてみては？



材料は、円柱型硬質ゴム製ブロック、ワッシャー、全ネジ、蝶ネジ、ビス、アルミ板、板切れなど



ステーにするアルミ板は、厚さ3mm、幅10mm、長さ20cm。下側5cmをハンマーで折り曲げる



板に取り付ける部分と上部のゴムブロック装着部分に、4mm径の穴を鉄用ドリルで開ける



ゴムブロックはホームセンターで買える穴あきタイプが◎。2つ重ね、穴に3mm径の全ネジを通す



ゴムブロックの両側にワッシャーを入れ、蝶ネジでステーにねじり留める。これを2セット作る



2本のステーを板切れにビス止めすれば完成。ラインの張り具合は、蝶ネジで自由に行える



ラインを挟むゴムの部分は、編み付け器の生命線。この精度さえバッチリなら、あとは簡単な工作レベルで作製可能なのだ

◆作り方のコツ◆

編み付け器は、ラインを挟むゴム部分の精度が甘いと0.1号クラスの極細ラインをうまく張ることができない。といっても、ホームセンターで買えるゴムブロックでも、大きめのワッシャーで挟み込んでやれば全然問題ない